

教育基本条例を 問う

単一の理念のもとに、極めて効率的に組織された教育が歴史上にあつた。陸軍大学校だ。ここから生み出されたエリートたちがわが国を比類なき敗戦に導いた。なぜ指導力も責任感もない秀才たちが組織的に作り出されたか。こういう教

育で育つと、対話能力がなく、前代未聞のことに対応できない。失敗から学ばない。上の人間の顔色をうかがい、大勢に順応してうまく世渡りする秀才ほど共同体にとって危険なものはない。上意下達組織は教育になじまない。

——学力向上のためにはこうした組織も必要では長く教員をやって、目の前で学生が知的に「脱皮する」瞬間に立ち会うことがある。目が輝き、一言も聞き逃さないと、前のめりになれる。学ぶ資質は誰にでも

ある。でも、何が引き金になつて学び始めるかは予測不能だ。わかるのは「数撃ちや当たる」ということ。教育理念や教育方法が違う

さまざまなタイプの教師との出会いを担保することが最も取りこぼしが少ない。

——競争原理は学力向上現場には多様性が必要だ。教育に市場原理を導入したことなどが学力低下の理由だ。教育サービスが商品だとすると、消費者である子供たちは、できるだけ少ない対価で最高の商品を手に入れようとする。全く勉強しないで一流の学歴を手に

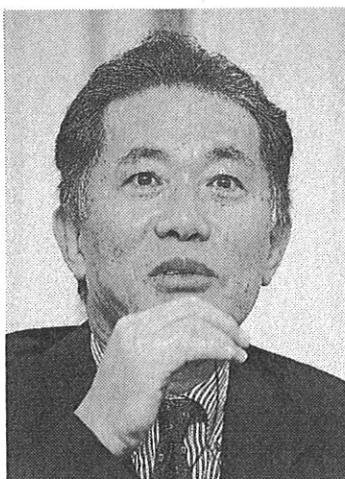
入れた子供が「賢い消費」だ。大人たちが「勝ち組になりました」と利益誘導したことで、教育はここまで劣化した。「努力したものには二エンジンを、しなかつたものには鞭を」という利益誘導には、いつまで続くのか。このモデルに基づく条例案の考

え方そのものが、今日の教育の失敗の主な原因だ。条例案が追求する「人材」とは、自己利益のために競争相手を蹴落としてゆくような人間。アメリカの大学を出て、多国籍企業に就職して、タックスハイブンの銀行に預金するような人間を作り、日本をどうしようというのか。わからない。

——アジアには、教育でエリートを伸ばして競争力を上げている国もある

知事が教育目標を決め、それを実践すべく教育委員、校長、教師が目標達成を競う「ピラミッド型組織」を目指す大阪府、大阪市の条例案。一見効率的見えるが、「最悪」と批判するのは思想家の内田樹さんだ。

**思想家
たつる
内田樹氏(61)**



競争原理むしろ学力下がる

入れた子供が「賢い消費」だ。大人たちが「勝ち組になりました」と利益誘導したこと

で、教育はここまで劣化した。「努力したものには二エンジンを、しなかつたものには鞭を」という利益誘導には、いつまで続くのか。このモデルに基づく条例案の考

え方そのものが、今日の教育の失敗の主な原因だ。条例案が追求する「人材」とは、自己利益のために競争相手を蹴落としてゆくような人間。アメリカの大学を出て、多国籍企業に就職して、タックスハイブンの銀行に預金するような人間を作り、日本をどうしようというのか。わからない。

——橋下徹知事はツイッ

ターで「教育は2万%強の原発事故の後、若い人に共同体や第1次産業を志向する動きがある。本能的に公

共の福利を優先させなけれ

ばと分かり始めている。

でも、今が「底」。震災や

原発事故の後、若い人に共

同体や第1次産業を志向す

る動きがある。本能的に公

共の福利を優先させなけれ

ばと分かり始めている。

でも、今が「底」。震災や

原発事故の後、若い人に共

同体や第1次産業を志向す

る動きがある